

---

◇ 広 地 紀 彰 君

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員、登壇願います。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。通告に基づき2項目10点にわたって質問します。

1項目め、3中学校統合から始まる新たな学校づくりについて。

1点目、統合に係る備品整理や処分、統合学校に係る貴重品保存、統合校舎の整備状況等、環境整備について伺います。

2点目、生徒が安心でき、また職員が新学校づくりに専念できる教職員配置への配慮について伺います。

3点目、統合前3中学校において取り組まれていた特色ある学習・文化活動への評価と統合後の取り組みについての考え方を伺います。

4点目、白翔中学校での研究活動及び中学校教員減に伴う町教育研究会や研究団体への影響と今後の考え方について伺います。

5点目、今後考えられる新中学校での課題とそれらの対応について伺います。

6点目、統合後の旧校舎の扱いと利活用への主な配慮について伺います。

7点目、新たな学校設立に向けて、その理念、特色、目指すべき学校づくりの考え方を伺います。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

〔教育長 古俣博之君登壇〕

○教育長（古俣博之君） 3中学校統合から始まる新たな学校づくりについてであります。

1点目の統合に係る備品整理や貴重品保存、整備状況等についてであります。3中学校統合に係る管理備品や振興備品については、統合準備委員会に学校備品プロジェクトを設置し、教育委員会と各学校の事務職員により備品の調査を行い、備品配置計画を策定し進めているところであります。現在は白翔中学校で使用する備品や他小中学校で使用する備品の要望リストを作成し、春休みでの移動を考えております。それ以外の備品については、4月以降に公共施設等での活用希望を確認し移動や整理をしたいと考えております。また、地域から寄贈された備品等や生徒の作品等については、その備品等に対する地域や生徒の思いが込められている貴重品もあることから、大切に保管をしたいと考えております。校舎の整備状況については、一部改修は残っておりますが、耐震改修や特別支援教室の改築も終えていることから、おおむね整備は終了していると捉えております。

2点目の教職員配置への配慮についてであります。新しい教育環境の中で子供たちが不安を抱えたり戸惑ったりすることのないように、白翔中学校の教員配置については、虎杖中学校、竹浦中学校、萩野中学校から教職員をバランスよく配置することとしております。また、生徒一人一人への細かな学習指導、生徒指導を行うため、教職員の定数に上乘せして教科指導、生徒指導担当教諭の配置を計画しており、開校に当たって円滑な学校運営を進めるための人的配

置や体制づくりに十分に配慮しているところであります。

3点目の3中学校の特色ある学習等の評価と統合後の取り組みについてであります。統合3中学校においてはそれぞれ地域とともに歩んだ歴史があり、子供たちや教職員によって受け継がれてきた伝統が学校の校風を醸成し、地域のシンボルとして存在してきました。また、教育活動においても先進的な取り組みや学校研究が実践され、道教委、教育局から表彰を受けるなど、本町の教育の発展に対し多大な貢献があったことに改めて敬意を表するものであります。白翔中学校においてもこれまで3中学校が築き上げてきたそれぞれの成果の上に立ち、さらに進化発展させるとともに、保護者や地域からの負託に応え、信頼される学校づくりを標榜し、子供たちや保護者から統合してよかったと実感していただけるような教育を展開し、よき伝統、校風をつくり上げていきたいと考えております。

4点目の白翔中学校での町教育研究会や研究団体への影響と今後の考え方についてであります。今までの3中学校が成果を上げた学校研究の取り組みとして、基礎基本の定着や小集団による学びあい、生徒の主体的な学びを引き出す学習指導などの実践があります。こうした研究活動の実績とあわせ、白翔中学校が掲げる学校教育目標を具現化し、子供たちに確かな学力の定着を図る研究内容や方法を学校が具体的に進めていく中で、町教委としても研究の方向性や学習指導のあり方について指導助言を行ってまいりたいと考えています。また、中学校教員の減少に伴う町教研への影響としては、部会構成員の減少はあるものの、そのことにより教員の研修機会や研究活動が後退しないよう事務局と連携を密にし対応を進めてまいります。

5点目の新中学校での課題と対応についてであります。課題としては、いじめの問題や友人関係の構築、学習環境の変化に対する不安や学力、スクールバスによる登下校等の問題など学習面、生活面に関することや、開校に向けて実施した保護者、地域住民のアンケートから、思いやりの心や他者理解、夢や目標に向かって努力する態度の育成など、保護者、地域住民が学校に託す願いもあります。これらのことを学校がしっかりと受けとめ、子供たちの変容を具体的な成果として全教職員が指導に当たっていくことはもちろん、町教委としても子供たちの安心・安全な学校生活を保証するという観点から、学校支援を進めてまいりたいと考えています。

6点目の統合後の旧校舎の扱いと利活用への配慮についてであります。虎杖中学校閉校後の利活用については、既にご報告のとおり民間企業による校舎の活用、ハーブガーデンの設置及び新たな工場の建設などを計画しています。この計画の中では、校舎は原型のまま事務所、研究室及び体験教室として活用する考えであり、グラウンドにつきましては野草園やハーブガーデンとして活用することとしております。また、この利活用につきましては、地域住民への説明会を開催しておりますが、この説明会の中において古井戸の利用に伴う周辺事業者への影響を心配される旨の意見が寄せられたことから、現在これらの意見を踏まえ、周辺事業者に配慮する方向で企業側と協議しているところであります。

7点目の新たな学校の理念、特色、目指すべき学校づくりについてであります。白翔中学校においては、これまで以上に子供たち一人一人の健やかな成長を願い、目指す教育の三つの柱として、学力の定着・向上、生徒指導の充実、教師力の向上を掲げ、保護者、地域に開かれた

学校づくりを進めてまいります。そのため子供たちの学びの環境を整え、学力を保証すること、またその基盤となる子供たちの心の居場所づくりや、安心して学校に通える生徒指導の充実に努めてまいります。さらには子供たちの成長を支える教師力を高め、ともに協力、協働し、率先垂範の精神で、みずから高める教師集団づくりに町教委としても学校とともに研修の場を設けるなど取り組んでまいります。これまでに経験できなかった学校生活への新たな希望に胸膨らませ、一人一人の子供たちが笑顔で4月からの新たな生活を送ることができるよう、教職員が一丸となり、準備に取り組んでまいります。

以上です。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。1点目の校舎の整備状況と備品の整理や活用の考え方については十分理解しました。

次の虎杖、竹浦、萩野中学校の各学校における卒業記念品など思い出の詰まった貴重品の扱いについてです。時間をかけてつくった見事なレリーフや木彫り、切り絵、美術の学習活動や卒業記念としてお世話になった学校に残したいと思つてつくつたお金にかえられない財産、また、地域の方々からの思いが込められた寄贈品、そして大会や各種学習活動の表彰状やトロフィーなどの記念物も多々あるかと思いますが、当然、新中学校に飾りきれぬ量でもなく、またそぐわないものもあるかと思えます。そこで、適切な保管をとすることはご答弁いただいているのですけれども、例えばですが、代表的なものだけでも公民館や生活館など公共施設にて再展示をするなど、適正な保存はもとより有効活用を図るべきだというふうに考えますが、現時点での貴重品保存、そして利活用の方針をお尋ねします。

○議長（山本浩平君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） ただいまのご質問にお答えいたします。広地議員もおっしゃったように、新しい学校には余裕教室等がありませんので、全部を持っていくことは当然無理であることはご承知だと思います。それで、一部例えば3中学校の校旗につきまして、閉校式に使われました校旗ですが、それにつきましては、新中学校の当分は多目的ホールに3本並べておき、それからいずれは三つの棚の中に納めたいと考えております。

また、学校において例えば全道大会等の大きな大会で獲得したトロフィー等についても、部分的に納められるものは納めたいと考えております。

また、竹浦中学校におきましては廊下に1回生から65回生までの卒業生の写真があるのですが、これも地域、学校から要望されまして、何とかどこかに掲示してほしいということもありまして、これにつきましては竹浦コミセンか竹浦生活館の壁に掲示を、今準備を進めているところでありまして。ただ、先ほど申しましたように全部の備品は無理だということで、当面は適正に保管していこうと考えております。

以上であります。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

[ 8 番 広地紀彰君登壇 ]

○ 8 番（広地紀彰君） 8 番、広地です。貴重品の保存についての配慮はもちろんなのですが、その活用のあり方について具体的なお話もいただいたので、ほかの各中学校においても恐らくたくさんの願いを持っていると思いますので、そのあたりの配慮や利活用に対する考えを改めてお願いしたいなど。

この 1 点目の最後になりますが、特に保存や処分に注意を要する物品の扱いについて確認を込めて質問します。例えばですが、個人情報などが詰まっている指導要録などの扱いについてです。学校教育法の施行規則にも、ほかの定めもありますが、大体 5 年、20 年でそれぞれ種類によって保存期間が決まっていますが、大体の学校は校長室にある大きな金庫にてその年限を過ぎても保存されていることがほとんどです。ただ、当然ご承知のこととは思いますが、3 中学校の分が白翔中学校の金庫に入るわけでもなく、また今回この本人の生活態度から学習の評価について、ましてご家族の分までの個人情報の固まりですので、この要録の処分や保管については格段の配慮が必要だと考えます。

また、理科実験で要する薬品などの中にも、現状の指導要領では使用しないような薬品もその旧来の学習指導要領の中で採用されている、今から考えると危険な薬品も含まれています。そういった部分についても当然必要、不必要になってくる部分がありますので、こうした特に注意をする物品の整理、保管、処分への配慮や方策について確認を込めて質問します。

○ 議長（山本浩平君） 五十嵐教育課長。

○ 教育課長（五十嵐省蔵君） 薬品についてですが、薬品については一時白老中学校で夜間の薬品等の、緑小等とあったときに、各学校に周知して極力不必要な薬品については処分して、毎年処分しております。

また指導要録等についてであります。学校教育法施行規則によって指導要録については 20 年、それからそれ以外のものについては 5 年という保存期間がありますので、基本的にはそれに従って適切に対応していくわけなのですが、極力金庫等に余裕があれば、今広地議員おっしゃったように大切な資料については保存できるものは保存していきたいと考えております。

以上であります。

○ 議長（山本浩平君） 8 番、広地紀彰議員。

[ 8 番 広地紀彰君登壇 ]

○ 8 番（広地紀彰君） 8 番、広地です。わかりました。

それでは、環境整備に当たっての 2 点目、生徒が安心でき、また職員が新学校づくりに専念できる教職員配置についてです。この生徒の確かな学力を保障するためにこれまでも習熟度別学習、小人数教育、チームティーチングなど学習指導の充実を図るための教員の加配、また、生徒の健全な育成、心身の健全な育成を図るための生徒指導の加配やスクールカウンセラーの設置など統合にかかわる諸課題に十分向き合える学校体勢の充実が欠かせないと考えますが、教育委員会の見解とその対応の状況について説明を求めます。

○ 議長（山本浩平君） 辻教育部長。

○教育部長（辻 昌秀君） 白翔中学校、新校の教職員配置については、教職員の人事異動に対する教育局のヒアリング等の中でいろいろな配慮をいただくよう要望してきているところでございます。そういう部分では、現在の予定では16名の配置になりますけれども、その中には生徒指導、あるいは指導改善、また巡回指導等の加配、さらに特別支援教室の数が3学級を超えるという部分もあって、特別支援含めて4人の配置がこの中で予定されております。そういう部分では、考えられるような配慮をした中で国のほうに要望し、一定程度確保されてきているという状況でございます。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。わかりました。

体制について、それから、この統合学校のさまざまな課題についての配慮が必要になってくると思いますが、前段で申し上げようかと思っていたのですが、これは3中学校の統合問題としての質問ではないのです。3中学校の統合から始まる希望に満ちた白翔中学校という新たな学校づくりという観点で本質問を議論していきたいと考えて、今回質問させていただきました。

今回統合、そして新学校を創立していくという、白老教育行政の重要な局面を町長は前教育委員として、副町長は前教育長として、そして、古俣教育長におかれては教師人生としての過半をこの白老の子供たちに尽くしてこられたという、町理事者が教育に大変造詣が深い中で迎えることができたとのことです。白翔中学校開設に携わってくる多くの生徒、保護者の皆さんにとっては、希望とともに不安も抱えているのが現実です。当然新中学校の主人公は生徒であり、学校づくりは学校保護者、地域がなしていくものだと考えますが、学校設置者として新中学校任せではなく、かくあるべきと思って万全な準備、支援をしてきたのかどうか。開校を控えた今こそ確かめなければならないと考えています。

それで、実際にこの統合学校については確保しておかなければいけない統合学校に対する統合したことによるさまざまな課題が起きると考えます。現状、教員の体制についても万全に最善を尽くしているというご答弁をいただいておりますけれども、ただ、実際保育所から一緒だった人間関係がこの統合によって大きく変わる機会をつくるという側面も持っており、この統合で人間関係が大きく変化する中で、さまざまな生徒指導上の課題が、例えばいじめだとかそういった課題が起きてくる可能性も考えます。この教育、この課題について、担任の先生のせいにするのか、その指導力のせいにしてしまうのか。それか、担任や生徒指導、管理職との連携や協働に配慮していくのか。そういった問題の捉え方、また、統合に係るその友人関係のこじれなどから生じた問題を問題として捉えるか。それとも、これが豊かな人間性を養う磨きあうための大きな契機と捉えて、積極的に報告を求めて、透明性を明らかにしてその問題の解決に協働していくのかどうか。そういった統合に伴う生徒の人間関係、生徒指導上の課題が生じたときの捉え方、そして指導観。そして白翔中学校との連携の配慮について、教育委員会としての考え方を伺います。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 今のご質問、大変重要な、そして大きなご質問だと思っております。そのことを委員会としてどういうふうにして捉えていくかというところが、これからの学校づくりに大きく影響してくることだと思っております。私もこの立場で、十分重く受けとめております。

新しい学校をつくっていく、そのこのところに何よりもやはり子供たちがどういう生活をつくり出していくかということがまずは大きな、そして大事なことだろうというふうに思っております。そのことをこの統合にかかわって長い時間をかけて、地域とも、それから保護者とも、もちろん、子供たち自身の交流も含めて進めてまいりました。これから新たな学校をつくっていくわけですけれども、そこで大事にしたいのは、後ほどまた機会があれば詳しく話をしたいと思っておりますけれども、一つは、しっかりと子供観を持つということだと思っております。それと同時に、学校がどのような指導観を持って子供の指導に当たっていくか。

そこにもう一つあるのは、その学校経営をどのような心情で進めていくかという教育理念の持ち方です。そのこのところは詳しくは今述べませんけれども、そういった三つのところから今議員がおっしゃったその学校と教育委員会のかかわりが明確に、太くつくられてくるものだと思っておりますので、十分そのこのところは今後配置する校長含めた教職員と教育委員会が密に連絡をとりながら、決して学校任せの新しい中学校ではなく、委員会も含め、まち挙げての新しい学校にしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 今の答弁については十分理解しました。学校に人格をとという言葉があります。ある教師の言葉でしたが、私は白翔中学校が多くを期待を担って、知徳体の成長をしっかりと保証する厳しさと、そして、また発達の迷いや願いを受けとめられる優しさを持った、子供への愛を持った学校に育ってほしいと願っている一人なのです。教職員配置について、そしてその考え方、問題行動に対しての押さえ方について今議論を深めてまいりましたが、そういったその受けとめられるという部分にかかわって、統合前の3中学校で取り組まれていた特色ある学習、その他の活動についての今後の取り組みについて、もう少し深めてまいりたいと思っております。

白老町スタンダードの議論は後々触れてまいりますが、3中学校では基礎学力を保証する対応で大変個性的な学習活動が展開されてまいりました。ベーシックタイムや計算道場、萩野塾といった、そういった図られてきたその学力向上の実践、その学力の状況把握から家庭教育の実態、具体的な学習指導の改善の工夫がこの冊子に各校の独自性をもってきちんとまとめられています。取り組みを進めてこられた学校関係者の各位、そして教育行政に対して深く敬意を表すところですが、この新設の中学校の学力の保証にかかわって、新中学校であるからこそこういったこの学力の保証についての意図的、計画的な対応も据えておく必要があると考えますが、この統合を控えて教育課程プロジェクト等でさまざまな議論も含まれていると思っておりますが、こういった教育課程プロジェクトなどの議論や今後の学力保証の具体的な対応について、

概略で結構ですのでお尋ねします。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 学力の保証につきましては、統合がなされるという段階から、教職員、それから保護者も含めてこれはしっかりとしていかなければならないということで、十分これまでの準備委員会の中でも論議して取り組みを進めてきております。時期的には、ちょうど今年度、24年度が中学校における新しい学習指導要領の全面実施の時期でございますので、1年前から3中学校においては、24年度からなのですけれども、同じ学習計画、カリキュラムの中で、そして、同じ評価価値、項目、評価方法で進めてまいりました。これからこの統合してからの学力向上に向けての取り組み方ですけれども、今子供たちは今度一緒になる、入学してくる子供、それから2年生の子ども、3年生の子どもというのは、これまでの全国学力学習状況調査の6年生の時期の学力の実態、それから生活実態については捉えられておりますけれども、中学校においてはまだそこはなされていないので十分な部分がありません。そういう中で、今学校現場ではNRTという標準学力、個別のそういう標準学力テストがあるのですけれども、そういうものを活用しながらそれぞれの学校で一応捉えて、小学校の段階で捉えてきたものを、もう一度中学校として捉え直して、それで、個々の学習指導のあり方について手だてを立てて、取り組みを行っていきたくと思っています。同時に、授業形態については、これまで培ってきた方法を教えまして、進めていきたくと思っております。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。わかりました。

続いて、その学習活動の展開に当たっての、もちろんその総合的な学習の時間と、さまざまな特色ある学習活動が展開されていくと考えますが、その白翔中学校における地域の考え方があります。中学校の灯が消える竹浦や虎杖浜地区においては、ふるさと学習、社会貢献学習、地域清掃などのボランティア活動など各中学校が各地域から教えられたこともあります。逆に各中学校が地域で果たしてきた役割も相当数あり、言うなれば灯火です。各地域の食の研究や発表で地域に光を当て、その取材を受けた事業者の皆様は誇りを再確認する取り組みともなっており、各地域を各中学校が十分に勇気づけてきました。これは生徒を指導すべき者、教育をするべき者としてだけの対象ではなく、生徒を主体者として、ともに地域をつくる形成者として、地域にとってなくてはならないものであったと考えます。しかし統合により中学校の灯が消える地区もありますが、このようなさまざまな学習の根本と、その取り組みの根本となる、白翔中学校にとっての地域をどう捉え、教育活動が展開されるのか伺います。

また関連して、各中学校が担ってきた地域の文化伝承活動も大変価値のある取り組みと考えますが、これらの新中学校での扱いについて基本的な見解を伺います。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 教育は学校だけで完結できないものだという事は重々、学校にいる人間にとってはしっかりと心に刻んでおります。地域、家庭も含めて、地域、家庭が本当に

学校とともに一緒に連携をした中で子供を育てていくというその絶対条件の中で、地域というのはやはり大きな学びの場であるというふうに捉えております。

そんなことで、総合的な地域にかかわる1番大きな学習の中で、総合的な学習の時間の内容的なものについては、先ほどもお話の中で、今年度から同じでテーマを進めてきております。それは、一つは、地域の食と観光を柱とした取り組み、それからもう一つは、キャリア教育を柱とした取り組みを進めてきております。そういう中で地域に入って、地域の歴史だとか、それから文化だとか、それから産業だとか、そういうふうなかかわりの中で地域の人たちから学びをさせていただいております。ですから、白翔中学校においても、地域を主体とした学習活動は、校区は広がりますけれどもしっかりと進められていくと思っております。

それから、地域と子供たちのかかわりの中で、今まで例えば地域のお祭りに子供たちが出ているだとかそういうふうなこともありました。これは今まで統合の準備委員会の中でも、地域の方々からどうなるのだというふうなことで声も上がっておりますので、そのことについては、十分配慮した、考慮する中で、決して、場所が萩野になったから萩野のみの中学校というふうなことではなくて、虎杖浜、竹浦も含めまして、しっかりとその今までかかわってきた地域活動については進めていきたいというふうに思っています。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。補足で伺います。教育長のご答弁にあったとおり、地域が広大となることによって学習の活動が広範囲になる可能性があります。こういった場合にスクールバスの弾力的な運用など、その広範囲にわたる地域活動に伴う学習環境の整備について一定の配慮が必要かと考えますが、そのあたりの考え方について。

○議長（山本浩平君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） スクールバスのご質問であります。新中学校におきましては、今年度、24年度1台購入しまして、25年度から2台によるスクールバスの運行、それから、もう1台ありますバスも校外学習ということで、3台ありますので、それを活用して対応していけると思っております。

以上です。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） わかりました。

それでは、教員が減少する中での研究活動についてということですが、こちらのほうはおおむね答弁のとおりで理解をしています。ただ、やはり中学校が2校しかなくなると、特に体育や芸術関係の教科などの教員の研究サークルが、今4校あれば4人の例えば音楽の先生がいたとして、それが2人になるわけですから成立しにくい状況も出てくると考えます。

例えばですが、他市町村との合同サークルなどを支援していくのか、それとも白老町スタンダードなどを拝見すると、この教科横断的に学力の向上への取り組みが図られていますが、こ

ういったような白老としての指導、白老町としての町内における指導改善などの研究活動を深めていくのか、そのあたりの今後の考え方について。

○議長（山本浩平君） 古侯教育長。

○教育長（古侯博之君） 3校統合によって中学校については21人の教員が減になります。ですけれども、町全体につきましては、16人の減で済みます。町教研においては確かに専門教科におけるその中学校2校というふうな中でありますから、サークル活動の部会の部分については多少の課題は残るかと思います。しかし、白老町の町教研につきましては、小中分けて構成しておりませんので、小中一緒に組んでやっておりますので、そんなに大きな教科活動の専門性が失われた町教研にはならないと思っております。あとは、やはり大事なことは、みずからの専門性の教科としての力量を高めると同時に、やっぱり全体的な教師力を高めていかなければならないというところが一番大事な時期に来ております。それはさまざまな教育的な課題が多様化しておりますし、高度化している中で、そういうような横断的な、今私どもが進めております白老町スタンダードの中で、一つ学力向上というふうなところに目線を置いた教師力の向上を図っているわけですが、そういった形で教師自身の指導力向上を図ってまいりたいと思っております。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

[8番 広地紀彰君登壇]

○8番（広地紀彰君） 研究活動に対しての配慮については理解しました。

5点目、新中学校の課題と対応についてですが、生徒の学習、生徒指導上の話についてはさきに議論しましたので省きます。それを取り巻いてくださっている保護者についてです。経過を拝見すると、この合同PTA活動など保護者同士の親睦や連携をこれまでも図ってこられている部分について私は評価していましたが、学校評議員などでの地域バランスなど、保護者も白翔中学校を自分達の地域の学校として支え育てるあり方に配慮するべきだと考えますが、いかがですか。

○議長（山本浩平君） 辻教育部長。

○教育部長（辻 昌秀君） 学校評議員制度のご質問でございますけれども、学校評議員会の目的につきましては、地域住民の参画を得て教育活動の充実を図るといような目的となっております。当然3中学校の各地域のバランスに配慮しなければならないと考えておりますので、具体的な人選等についてはそういう地域実情も配慮した中で、学校のほうで進めていただくようお話ししていきたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

[8番 広地紀彰君登壇]

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。わかりました。生徒の健全な心身の成長を育むためにも、行事や部活動についての配慮もその生徒の自己実現、成長のためには欠かせません。今までよりも大きな行事ができるのではないかと、人数がそろふことによってもっと多彩な部活動もできるのではと期待する生徒もいれば、今まで好きだった部活がなくなってしまうのでは

ないかと心配している生徒もいると考えます。また、中学校2校に絞られたことで、白老中学校の中学生にとってもいい刺激になる面も生まれてくると考えられます。新中学校での部活動や行事に対し、これまで統合準備してこられた教育委員会としての考え方を伺います。

○議長（山本浩平君） 五十嵐教育課長。

○教育課長（五十嵐省蔵君） 部活動のご質問であります。今まで萩野中学校においては9部活です。竹浦中学校におきましては6部活、虎杖中学校につきましては3部活があったわけなのですが、基本的には統合準備委員会でも話していましたが、新中学校においては、現在ある部活については全てまず開設するというところで進めております。

以上であります。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。わかりました。

6点目、統合校舎の扱いと主な配慮について伺います。まず虎杖中学校の校舎については、検討され、説明会を開催されているのは重々承知しております。ただ今後の動きについて、地区計画の策定や売買契約、また再度住民説明があると住民の説明会の中でも伺っていますが、校舎利活用の今後のスケジュールを、確認を込めて一度伺います。

○議長（山本浩平君） 大黒企画振興部長。

○企画振興部長（大黒克己君） 今後のスケジュールでございます。今後土地の売買等の最終協議を企業側と進めまして、その中でまず校舎の譲渡に向けて文部科学省への申請がございます。それとあわせて今回25年度の予算、新年度予算にも計上させていただいておりますが、土地の測量境界の確定、それから、6月には都市計画を決定させていただいて、その後7月ぐらいに財産管理委員会への提案と承認、それと9月には議会への譲渡に係る提案、10月ごろには契約というような、現在のところの予定、スケジュールとしてございます。その中で住民説明会及び議会には事前に時期を見て説明をさせていただきたいというふうに考えてございます。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。今後のスケジュール、どれもいずれも重要な懸案がまださまざまにあるというふうに理解しましたが、何より特に配慮を要する問題は、一言で言えば水の問題であります。これについてはきちんとお答えいただかなければいけないと考えているのですけれども、当初は日量2トンの計画で親水公園のほうから引水をするというお話を伺っていて、これが前回の全員協議会の中で4トンになって、このとき私も質問させていただきましたが、こうやって2トンが4トンになると。それがどんどんふえていくと不安になってしまうと。これでは不安を呼ぶので、例えば将来の増産の部分を含めて、ある程度どの程度必要なのか明らかにしていただきたいという話をしましたが、これに対してのご答弁では、全員協議会では基本、親水公園の水の範囲内であれば対応しますという説明を受けています。それであれば地域の住民の方も十分に理解しています。あそこは300トンぐらい出ているので、

そのうちの例えば 100 トンでもいいという方もいるぐらいなのです。親水公園の水ではよかったのですが、ただその直後の町による住民の説明会の中では、町有であります古井戸から水を供給すると。それでさまざまな懸念、ご指摘を住民説明会でいただいているので、十分承知はしていると思うのです。そういったように、古井戸一つ開けるにしても不安が生じ、そしておととい補正予算審議の中で古い温泉井戸を開けるという話も出てきました。私は地元配慮してくれる進出企業の姿勢、例えば、もう今虎杖浜や白老の業者から物を買ってくださっているのです。十分私、理解しています。さらにその経済効果、ここまで努力してきたこのさまざまな関係各位の思いに心から期待していますが、既存の養殖業だとか、加工業だとか、林業だとか、漁業だとかに携わる方にとって、いつも言われます。俺達は水で生きている。水は命なのです。温泉も同じなのです。地下は、水道はどこにどうつながっているからわからないから怖い、幾ら使っていないものでも町有財産であっても、自分たちに影響があるのではと。なし崩しに水が使われてしまうのではないかと不安を膨らませているのです。親水公園なら 100 トン使っても構わない。でも新たに別の水道を掘るのは、掘ってあるものであっても開けるのは、つらいのです。これから 2 トン、4 トン、古井戸、そして温泉と。こうやって広がっていくと不安を呼びかねません。関係各位のこれまでの成果を無にしないためにも、不安を呼び込ませないためにも、例えばですけれども、もう町としてのお考え、水関係者には迷惑をかけませんと。親水公園と水道用水以外の地下水は使用しませんと。だから、今回の計画に思い切り賛成してくださいと。そういったようには考えられないのでしょうか。地元業者も住民も心から安心して進出企業をお迎えするためにも、こういったような地元に対しての水への配慮、具体的なお考えを尋ねします。

○議長（山本浩平君） 大黒企画振興部長。

○企画振興部長（大黒克己君） まず、今ご質問にございました当初使用水量が 2 トンという部分から先般の説明会では 4 トンになったということにつきましては、昨年の 7 月に説明した段階ではあくまでもまだ構想段階だったということで、実際そのときには、基本的には化粧品会社でございますけれども、どのようなものをこちらのほうで製造するのかというものが決まっていな中での、ある程度の概算の大筋ということで押さえていただきたいと思うのですが、その後やはり会社側でもある程度整理をして、白老に進出した場合にどのような製品を製造するのかという部分がある程度考慮した中で、そこではじき出されたのが 4 トンという水でございました。

先般あわせてハーブガーデンの親水池、これに使用する水も確保したいということで、隣接地にある町の古井戸を使わせていただけないかというお話がございまして、それについても町のほうとしては特段問題ないという考えのもとに、そちらの方向で進めたいということで話は進めておりまして、それを地域説明会の段階で皆様にご説明したところでございます。その段階におきまして隣接事業者さんのほうから、やはりこれは、みずからの事業に影響がある懸念があるということで、それではなく、実際に今湧き出ている親水公園の水、これを使うのであれば問題ないけど、どうなのだろうかというご提案をいただきました。それで、今回進出予定

の企業さんのほうも、周りの事業者さんに迷惑をかけるような、影響のあるような行為はしないという前提で今回進出計画を立ててございまして、その旨ちょっとお話をさせていただいて、今後はその古井戸は使わず、親水公園の水を使うという前提で再度最終的な話し合いをもって決めていきたいというふうに考えてございます。

また、先般出ました温泉の利活用につきましては、調査については既に終えておりますが、まだ実際に出るか、出ないかという部分の報告は出てございませんので、それにつきましては、その報告を受けた上で議会の皆さんにもご説明をした上で、再度協議をさせていただきたいというふうに考えてございます。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） わかりました。

1項目め最後の質問に移りたいと思います。新たな学校設置による学校づくりについての考え方です。統合して誰もがよかったと思われる学校づくり、行政報告、教育行政執行方針にも示されたこの思い、これを白老の子供たちのためにも、小学校に控えた学校適正配置のためにも、これを必ず達成しなければいけないという責任を私たちは共有していると考えます。

一人の生徒の世界をつくる大事な教育という要素を、学校を通して、教師を通して、保護者を通して、地域を通してどのように考えているのか伺ってまいりました。統合によりこの白翔中学校が育ち、また育てる地域は3倍に広がりました。地域と学校、そして生まれるであろう白翔中学校で展開される子供たちの豊かな学びについての考え方、そして見通しについて、ぜひ教育長に伺いたいと思います。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） これまで白翔中学校開校に当たりまして、生徒、それから保護者、それから教職員、地域も含めてですけれども、どのような学校をつくるか、どのような生徒像を求めるというアンケート調査をしました。それを踏まえまして、今回新しい学校へ送り出す案としてですけれども、校訓を三つ掲げております。一つは、知行ということです。それからもう一つは、親和ということです。それからもう一つは、錬磨ということです。この三つに象徴される生徒像を求めながら、この三つの校訓にかかわる豊かに生きる子供たちを育てていくことが第一義的な学校の使命であり、私たち教育委員会がしっかりと支えていかなければならないことだというふうに思っております。ただ、そのためには、先ほど申し上げたような三つの観点、一つの子供観、それから指導観、それともう一つ学校経営にかかわる教育理念、信条、そういったものがしっかりと子供たちを目線にした取り組みでなければならぬと思っております。そういうことは十分今後配置する校長とも、それから教職員とも、理解を図りながら進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山本浩平君） ここで暫時休憩をいたします。

休憩 午後 3時15分

---

再開 午後 3時25分

○議長（山本浩平君） それでは、休憩前に引き続き一般質問を続行いたします。

8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。町内の魅力ある産業の連携と6次産業化について質問します。

1点目、町内における6次産業化の進捗と25年度町政執行方針での6次産業化などの産業の連携について伺います。

2点目、商店街活性化、商品開発、地元食材活用、高齢者雇用、道の駅推進など6次産業化に取り組んでいるさまざまな民間団体への評価と今後の町政のかかわりについて伺います。

3点目、将来にわたる町内産業連携と6次化推進への考え方を伺います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 2項目め、魅力ある産業の連携と6次産業化についてのご質問であります。

1点目、6次産業化の進捗と産業の連携についてであります。6次産業化の進捗につきましては、さきの本間議員の代表質問でもお答えしたとおり、民間主導による商品開発や行政と民間が連携した商品開発などが進められており、1次産業から3次産業までの連携は着実に広がっていると認識しております。このような中、ことし2月に設立した白老牛生産・販売戦略会議では、生産者から加工、流通、商工・観光関係団体まで網羅した中で、安定した供給体制の構築や町内消費の増加、販路の拡大などを目指しているものであり、次年度は具体的な計画を立て、一つ一つ課題を解決しながら連携して取り組む考えであります。

2点目の6次産業化に取り組んでいるさまざまな民間団体への評価と今後の町政のかかわりについてであります。これまでも町内の民間団体にとっては、多くの商品開発や販路の拡大による消費の増加に大きな成果を上げてきております。特に今年度は地元の食材を使ったご当地メニューとしてゆたら井を虎杖浜竹浦観光連合会が考案するなど、町といたしましても大変心強く感じているところであります。今後も6次産業化や地域振興策に関する情報提供、補助制度の周知などに努め、一緒に汗をかいていく考えであります。

3点目の将来にわたる町内産業連携と6次化推進への考え方についてであります。1点目でお答えしました白老牛生産・販売戦略会議はこれまでになかった新しい体制であり、生産者から加工、流通、商工・観光関係団体までの連携を視野に入れた取り組みであります。さらに商工会とより連携を密にしながら、食材王国しらおい地産地消推進協議会などとも情報共有を図り、6次産業化を町の産業振興の基軸の一つとして推進していく考えであります。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。町長の公約にも掲げられたこの6次産業の推進への意欲という部分について、私も大いに思いを確かにするところです。というのも、例えばなぜ6次産業化かということなのですからけれども、平成21年度に食料・農業・農村白書という総務省から出されている書類によりますと、食料、農産物、水産物の販売額が輸入も含めて約10.6兆円。そしてそれが外食出口となる、外食にまで至ると73.6兆円の売り上げになるのです。簡単に言えば、ただ単に取っただけだったら10兆円が食事提供までに進められると73.6兆円になるということなのです。これは、もし1,000円の商品として考えると、最終的に1,000円で売れた商品だと考えますと、農林水産物の販売業者が手にするお金は144円なのです。これがもし産直だとかその場でつくった人が売るとプラス183円、約2倍。そしてもし加工して商品化するとプラス532円。これで1,000円になるのです。つまり、農産物をつくっただけから比べると、産直をすることによって経済効果、売り上げが2倍、そして加工や商品化まですると7倍になるのです。だからこそ6次化は大事だということで、この部分については非常に推進について期待する一人であります。

今回この町政執行方針の中で、今ご答弁にもありましたが、この6次産業化の推進として白老牛生産販売戦略会議について重要視をされているという考えを伺いました。これについてはさきに同僚議員の質問にもありましたので詳しくは伺いませんが、ただこの白老牛のブランド化、そして販売というふうになると、肉、素牛ではなく肥育牛の出荷について考慮する必要があると考えます。もうご存知のとおり、素牛での出荷と比べて肥育牛の出荷については経営上の大きな苦勞があります。商品化までの長さ、敷きわらや飼料の高騰、そして出荷時点で景気が悪ければ、高級牛の取引価格が下がりますので、赤字でも売らなければならないという経済情勢に左右された側面があります。まず、近年の肥育牛の出荷頭数など、現状の白老町における肥育牛の出荷状況の説明を担当課に求めます。

○議長（山本浩平君） 小関産業経済課長。

○産業経済課長（小関雄司君） 肥育牛の出荷状況等ということなので私の方からお答えさせていただきます。直近の出荷頭数で言いますと、企業畜産のほうも含めて総体では1,200頭ほど出荷されています。そのうちいわゆる個人農家の頭数で言いますと、おおむね200頭ぐらいが個人の出荷になっております。このあたりの状況ということなのですからけれども、基本的に出荷の価格、今肥育牛の価格が大体82万円ぐらい、ちょっと前後あるのですが大体平均して82万円ぐらいということになっています。近年の飼料の高騰等を見ますと、飼料に82万円を出すと生産ぎりぎりといった部分で、特に個人の農家については非常に今肥育牛で出しても採算が厳しいといった状況でございます。

以上でございます。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。担当課で把握されているとおりで、やはり肥育牛の出荷頭数が一定量確保できなければ、せっかくブランド化をしても取引してくれる大口の顧客

に対しての需要が賄いきれない問題がどうしても出てきます。ただし、経営をされる側にとっては大変な苦労を重ねられているというお話です。

それで、肥育畜産農家の安定、経営安定化のための施策として、この肉用牛の肥育推進の振興基金など振興事業の利用実績、そして、さきにも若干質問させていただきましたが、新規の就農支援の事業についての利用の事業活用など、行政としての肥育支援対策の現状と今後の考え方について。

○議長（山本浩平君） 小関産業経済課長。

〔産業経済課長 小関雄司君登壇〕

○産業経済課長（小関雄司君） 資金等も含めた振興の対策ということなのですが、うちのほうで行政として支援しているといった部分で、利子補給といったことが主でやっております。中には肉用牛の肥育推進振興資金の利子補給といったものもやっております。これについては約9割の生産者の方が利用されているといった部分で、この事業に対する利息については全額町が補てんしているといった部分でございます。

次に、農家の経営安定化のための対策ということで、農業経営基盤強化資金の、これも利子補給ということなのですが、こういうこともやっております。これは道と町が2分の1ずつ支出して利子を補給しているといった部分で、これは23年度まで15件ほどの実績があります。24年度までやっていたのですが、肥育牛の改良センターの支援事業といった部分もセンターへ預託の補助ということを助成しておりました。22年、23年においては、優良繁殖雌牛の自家保留の導入の推進事業といった部分でも、1頭につき6万円ほど町で補てんして、そういった部分での経営の安定化等を図ってきている部分でございます。

以上でございます。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。畜産体制、畜産の供給体制については今質問に対してのご答弁で理解しました。ただ、今後もその取引価格の推移等を見きわめながら、その諸事業の利用の実績等も検証を踏まえながら注視をしていただきたいと、特にお願いしたいと思えます。

もう一つ、私たち食材王国しらおいを支えるものに海産物もあると思いますが、かねてより取り組まれてきた6次産業の草分けともいえる港で取り組まれた朝市の売り上げ推移など、現状、元祖6次産業と言っていいのかどうかわかりませんが、そういった部分についての売り上げの推移などの現状、そして今後の見通しや振興に対しての考え方をお尋ねします。

○議長（山本浩平君） 小関産業経済課長。

○産業経済課長（小関雄司君） 朝市の状況ということなのですが、平成15年からこの朝市といったものは実施してきております。現在では白老港と登別漁港のほうで年3回ほど、合計6回実施してきております。旬の海産物を販売しているのですが、相乗効果ということで、例えば港まつりで一緒にやったり、また味覚フェアで一緒にやったりといった部分で、

単独で朝市やるといった部分あるのですけれども、相乗効果を狙ってそういうイベントに絡んでやっているという状況でございます。

24年度の売り上げとしましては130万円ほど、年間通して近年は大体130万円から140万円ぐらいの売り上げがあるような形になっています。来場される方についても年間で600から約700人。天候にもよるのですが、平均したら600から700人くらいは来ているかなといった状況にあります。今後についても、基本的には朝市、これだけの人を呼べるといったことで、ほかの祭りと一緒に相乗効果をこれからも図ってやっていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。わかりました。

2点目に移ります。さまざまな団体、民間における6次産業化への評価と町政のかかわりについてですが、おおむね答弁で一問目については理解しました。ただ、白老にある、例えばですが、障がい者の授産施設ともなっている白老ブランドのお菓子の新商品開発に成功されている事業者、また最近道知事による表彰も受けた団体による高齢者雇用や白老にある3野草を活用したようなそういう事業者など、個性的で第三者からも評価を受けている取り組みが展開されていますが、一方で課題、さらなる展開を模索している事業体もあります。行政として把握されている課題と、それらに対応ということで、実際周知、情報提供や補助制度の周知も非常に重要な取り組みになっておりますが、具体的にいろんな課題も把握している部分あると思いますので、そちらへの対応のあり方をお尋ねします。

○議長（山本浩平君） 小関産業経済課長。

○産業経済課長（小関雄司君） 民間団体でもいろいろ障がい者の方、また高齢者の方が頑張っている団体というのは十分私どもとしても掌握しております。よく話を聞く中では、結構さまざまに商品開発されているのですけれども、その補助制度の内容ですとか申請の事務手続きとか、そういった部分の問い合わせというのが結構来ておりますので、そういった部分については随時うちも情報を提供して、お手伝いしているといった状況にあります。それが終わった次の段階で商品開発した部分を今度はではどうするのだという部分は、具体的な販路拡大といいますか、物販の部分でなかなかその単独の事業者だけでは多角的な販売ができないといった部分ありますので、そういった部分では、うちも積極的にそのあたりかかわって、例えば白老牛肉まつりとか港まつりに物販として出すだとか、また東胆振物産まつりとか、札幌であるオータムフェストとか、そういうところにイベントとして一緒に出て、そのあたりで販路拡大につながるようなPRを一緒にやっているといった部分でございます。例えば具体的に言いますと、こういう団体でつくっている野草茶を、先般うちの職員と一緒に登別のホテルへPRに行って、そこで置いていただけないかとか、そういった部分、一緒にすることが、答弁ではないのですけれども、一緒にいわゆる汗をかいて、皆さんと一緒に行って取り組んでいるといった状況にあります。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。今答弁にありましたとおり、一緒に汗をかいていくという姿勢に私も大いに共感しますので、実際に補助金わかっていても申請できない、パソコンが使えない、仕組みがわからない、書き方がわからないということで悩んでいる事業所さんのお話も伺っていますので、ぜひ一緒に汗をかいていくというこの姿勢について、これからも大事にしていただきたいと思います。

最後、3点目になります。将来にわたっての6次化、産業連携ですが、こちらについて行政営業という町政執行方針で志を掲げられています。昨年度も町長のトップセールスということで、町内の産業活性化のためにみずから陣頭指揮をとって汗をかいていくという覚悟を示されていましたが、この行政営業についての基本的な考えは、昨日お話をいただいて理解しています。ただ、具体的にどのように動くのか、その活動のイメージなど具体的にどのように考えているかをお尋ねします。

○議長（山本浩平君） 大黒企画振興部長。

○企画振興部長（大黒克己君） 行政営業という言葉は先般お答えしたとおりでございますが、実際の具体的な動き方と言いますか、そういった部分でございます。これはまだ今後の機構改革の中で、課の中で業務分担等行いますのでまだ固まったわけではございませんが、一つはこれまでのやはり守る行政から攻めの行政というようなことで、どんどん攻めていく姿勢で、外に出ていろいろPRあるいは販路拡大をしていくということで、今回のこの部署につきましては今の企業誘致のグループをさらに拡大させて行政営業グループというようなことになります。

そういった部分では、新年度東京事務所も廃止されるということで、その部分、その業務も取り込んで、企業誘致の一つの出張で東京上京した折に、例えば販路拡大の部分、あるいは観光、あるいは農水産とか、そういったもろもろの営業をやはりしていくと。それで町もPRしながら、あとは人と人とのつながり、いろんな企業さんともお知り合いになって、いろんな情報を得るといようなことを今のところ考えてございます。また企業誘致もメインになると思いますけれども、企業誘致も会社のみならず、金融機関もいろいろな情報持っておりますので、そういった部分も積極的に回って情報収集をしていかなければならないというふうに考えてございます。

○議長（山本浩平君） 8番、広地紀彰議員。

〔8番 広地紀彰君登壇〕

○8番（広地紀彰君） 8番、広地です。行政の発信力というきょうのご答弁にもありましたとおりで、行政の信用を生かした発信の仕方というのは、民間がただパンフットを置いてくれただけとは大いに違うと思いますので、そちらのほうの成果を期待したいと思います。

また営業とともに大事なのは戦略です。既に今白老牛に対しては販売戦略会議を開催し構築を深めていくということでしたが、例えばですけど、白老のバーガー&ベーグルの取り組みというのは記憶に新しいことかと思えます。平成19年に販売を開始しておりますが、平成18年

度の交流人口 180 万人台まで落ち込みました。これはバブルの時期から一定して斬減続けていましたが、それが販売したことによって平成 20 年度、207 万人程度まで、200 万人台まで観光客数、交流客数が回復を見せています。その大きな原動力の一つとなり、また作業所がバーガーのパンを製造する設備投資をした、こういった町内における一次、二次、三次産業を大いに活性化する成功例も持ち合わせています。こういった連携についての考えと、戦略構想に向けた行政の体制のあり方についてお考えをお尋ねします。

○議長（山本浩平君） 大黒企画振興部長。

○企画振興部長（大黒克己君） 今広地議員がおっしゃられた件につきまして、そのとおりでございます。やはりそれぞれ町内企業連携して、新たな商品開発なり、そういった商業の売り込みですとか、そういった部分を共同でやっていくということが必要だと思います。そういった中で行政として何ができるかという部分でございますけれども、まずはその 6 次化に当たった補助メニューですとかそういったものを新たに整理して皆さんにお示しするというのも必要だと思いますし、それから、それぞれの商業の方、あるいは漁業の方に独自にやっていただきたいと言ってもなかなかマッチするというわけではないものですから、その辺は町がお膳立てをして、例えば何らかの会議なり、戦略会議みたいなものをつくってやるですとか、あるいは一つのストーリー的なものをある程度提示した上で、こういう流れで乗りませんかみたいな、そういうものを提示できたらいいなというふうに思っていますし、そういう形で町の体制も整えていきたいというふうに考えてございます。

○議長（山本浩平君） 8 番、広地紀彰議員。

〔8 番 広地紀彰君登壇〕

○8 番（広地紀彰君） 8 番、広地です。町内経済の概要を見ると、平成 22 年度高齢人口による町内販売額は約 49 億円と推計されています。これは 176 万人という高齢人口で割ると 1 人当たり消費額は 5,073 円となっております。これは計算上ですけれども、この 5,000 円の町内消費額、もう 500 円町内で買ってもらえれば、計算上の売上高は 4 億 9,000 万円の増となり、これが町内業者にもたらされる。

もし逆に、また別な見方で言えば、人件費率 30% で、労働者一人当たりの賃金が 300 万円で計算するとすれば、これどれぐらいの会社が企業誘致なるかということ、49 人の雇用持つ企業進出に匹敵します。この売上高というのは。そのためにも、やはり今町が掲げている 6 次化、その一次、二次、三次の連携が欠かせないと考えますが、この産業発信の拠点として今後必要になる部分が考えられると思いますが、現時点でのお考えをお尋ねします。

○議長（山本浩平君） 大黒企画振興部長。

○企画振興部長（大黒克己君） 今おっしゃられました消費を 500 円上乘せするという部分でございますが、これが必要なものとして用意できるものというのは、やはり町としての食材、中でも新鮮な農産物、魚介類ですとか、あるいは魅力ある商品を開発して PR して、町に来ていただいて、500 円、もっと買っていただくというようなことかなと思っております。

そういった中におきましては、これ 6 次産業化のはしりだと思うのですが、例えば牛肉の

レストラン、これについては、自分の農家で育てた牛をそのままレストランで出すと。これはこの間、帯広畜産大学の教授がおっしゃっていたのですけれども、こういうところは見たことがないと。これはすばらしいことだというようなこともおっしゃって来ていました。

こういった白老牛に限らず、このほかにもいろいろ、町内では魅力あるレストラン等もできございますが、まだまだあと 500 円ということでございますので、こういった部分からすれば、やはり魅力ある商店街もそうですし、あとはそういう拠点づくりというものも今後必要になってくるかと思えます。それについては、いろいろ考える上では、例えば道の駅であるとか、今町内でも検討しておりますが、今後できるであろう象徴空間の博物館等にも、これで観光客も大いに増加するという期待もありますので、それをある程度考慮しながら、町内のどこかにそういった拠点があってもいいのかなということで、今我々のほうでも検討している最中のございますので、そういったものを実現するために、やはり町内の業者さん、協力しながら話を進めていければというふうに思っております。

○議長（山本浩平君） 8 番、広地紀彰議員。

〔8 番 広地紀彰君登壇〕

○8 番（広地紀彰君） 8 番、広地です。わかりました。

それでは、最後に町長にお尋ねしたいと思います。一次、二次、三次産業の現状とその連携、今後についての議論を今深めてまいりましたが、これはまさに白老だからできる取り組み、このような厳しい状況という話が続いていきましたが、例えば、これは高知県の馬路村という 1,000 人足らずの小さなまちで、ここは特産品が柚子だそうです。昔は柚子を取って、それを出荷していた。それが今柚子のみだけではなく、柚子のジュース、柚子ポン酢しょうゆ、柚子こしょう、柚子の化粧品まで使えるようになり、およそ売上高年間 38 億円です。

こういうふうに、そのただ取って売る、農家の皆様に一定の利益が入る。ただ、それが二次、三次に広がることによって利益が分配されていく。この利益の分配というのを、全体最適化と言うそうです。白老町は今答弁にもありましたとおり、わが国の民族共生の象徴となる空間構想の中心地として飛躍のチャンスがめぐりつつある中、ただ象徴空間だけ訪れて素通りする白老とならないよう、今こそ 6 次産業の発展、その発信が必要かと考えますが、町長のお考え、そして今後の 6 次産業化への意欲についてお尋ねして終わりたいと思えます。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 6 次産業化のお話ですが、公約にも載せております。一昔前地産地消という言葉が出まして、今 6 次産業化というお話なのですが、その精神をもとに 6 次産業化の構築にいきたいと思っておりますし、今進んでいる最中のございます。柚子の村の話、本当に理想系だと思います。生産・加工・販売のことも考えて、でも一番大切なのは何かと言いますと、その物がお客様にどれだけ必要とされるかということとありますので、ここは町内の業者さんの努力も必要だと思います。そこで行政として何ができるのかというのは、地元の企業とのバックアップも含めて、タグを組んで、物をどういう形で消費するか、お客様に喜んでもらえるかということと一緒に汗をかいていきたいと思っております。

白老はご存じのとおり食材王国と、食材はいっぱいあるのですが、なかなかそれが今町内消費もあわせて町外にうまく売り出していないのではないかとこのころで、白老牛に関しては今回の販売戦略会議を設けました。まだいろいろ物はあるのですが、その価値を高めて、生産の値段ではなくて販売の値段で売って、町内の経済がまわるように仕組みをつくっていきたいと考えております。ただこれはアイデアとタイミングと情熱をいろいろ組み合わせなければならぬと思っておりますので、一番大切なのは情熱なのかなと思っております。これ各企業さんとも一緒にやっていきたいと考えておりますので、町としては、町が引っ張るのではなくて、企業の努力にあわせて町がお手伝いをさせていただければいいと考えております。

○議長（山本浩平君） 以上をもちまして8番、広地紀彰議員の一般質問を終了いたします。